

自律的・能動的行動を育成するための大学初年次学修プログラムの実証的提案

今村 咲貴[†] 中村 太戯留[‡] 上林 憲行^{†‡}

東京工科大学大学院 バイオ・情報メディア研究科 メディアサイエンス専攻[†] 東京工科大学メディア学部[‡]

1. 研究目的

高等教育機関進学者の増加に伴い、大学・短大への進学者が増加した。その結果、入学する学生の学力や志望動機の多様化が進み、従来の高大接続教育では対応できない事例が増加し、それに伴い、2000年頃から初年次教育という考えが浸透し始め、2007年には初年次教育を導入する大学が97%を占めるようになった¹⁾。大学によって取り組みの内容は異なるが、「受動的な学習態度から能動的で自律的な学習態度への変換」を目指すという点は共通している。本研究では、学生の自律的・能動的行動を育成するための条件を調査し、大学初年次学修プログラムとして実践することを目的とした。

1.1 初年次教育プログラム

初年次教育はレポートの書き方等のスタディスキル、自校教育オリエンテーション、キャリアデザインなど、幅広い分野をカバーしている。先述したように、同じ初年次教育の中でも取り組みは各大学によって異なる。河合塾²⁾が行った調査によると、嘉悦大学では「実践→認識→学習」という流れで講義を行い、学生の学習意欲を図っている。金沢工業大学はポートフォリオを活用することでキャリアデザインを推進させている。三重大学では、自己省察を繰り返しながら能動的学習習慣を身につけさせている。

1.2 研究仮説

そこで本研究では、学生の自律的行動を育成するためには、どのような条件が必要なのか調べることを目的とした。仮説の一つとして、「クイックレスポンス」と学生の成績等のパフォーマンスについて着目した。ビジネス界では、「クイックレスポンスができる人は仕事ができる」ということが大前提になっているが、実証した文献は見つかっていない。そこで、クイックレスポンス等の基本的な行動様式と学生のパフォーマンスにどのような関連があるのかについて調査した。

2. 研究方法

本学メディア学部では「フレッシュャーズゼミ」(以下、FS)という少人数ゼミ形式の講義で初年次教育を行っている。今回立てた研究仮説を検証するために、検証方法の一つとしてFSを利用した。FSの講義内容は基本的に教員に一任されており、共通の課題以外の活動は「自律的・能動的な学習態度の養成」という教育目的に合致するように教員がデザインする講義である。今回は共著者の一人である上林の担当するFS(以下、上林FSと呼ぶ)

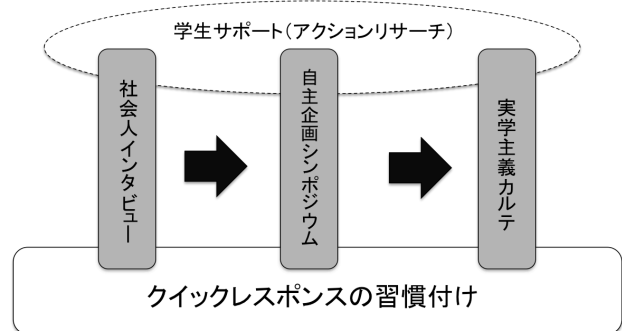


図1. 上林FS学習プログラム

にて、自律的・能動的な態度の養成のため、配属された1年生に対して「社会人インタビュー」「自主企画シンポジウム」「実学主義カルテ」という3つの課題に取り組みさせた。「社会人インタビュー」とは、学生が身近な社会人にアポイントメントをとり、大学生生活のアドバイス等をもたらしてくるという課題である。自主企画シンポジウムとは、酒井³⁾が取り組んだ内容で、学生数名でグループを組み、グループ毎に決めたテーマの元企画を立案し、ゲストと観客を呼んで企画を実施するという課題である。「実学主義カルテ」とは、本学メディア学部のFS全体の共通課題であり、4年間の大学生生活の計画を立てて発表するという課題である。3つの課題の他に、クイックレスポンスの習慣付けのため、教員のfacebook上のグループへの投稿に対し、24時間以内に確認し返信コメントをすることをルールとして設けた。上林FSで前期に行ったプログラムを示す(図1)。

3. 行動の数値化と相関分析

2013年度前期に上林FS生12名に対し、プログラムを実施した。仮説検証のために、アクションリサーチを行う必要があったため、上林FSの運営を筆者が行うことにした。前期プログラムを通じて観察された学生の行動や自己評価等を基礎データとして収集した。

3.1 行動の数値化

収集した基礎データを図2に示す変数として数値化した。即ち、「返信ポイント」とは、facebookでの返信コメントの時間に応じて得点を与え、その得点と回数を掛け合わせた合計値である。今回は6時間以内のコメントに3点、24時間以内のコメントに2点、遅れコメントに1点、コメントなしに0点を与えた。「発表点」とは、学生が発表した時の態度を筆者が採点し、点数化した合計値である。原稿を読むだけで1点、資料を差しながら読むと2点、発表者が聴衆を見ながら話す3点、身振り・手振りを交えて話す4点を与えた。「提出物ポイント」とは、学生が提出した課題に対して筆者が文章量のみを採点し、点数化した合計値である。記入欄のうち8割以上埋めていけば3点、すべての欄に記入があれば2点、提出しただけだと1点を与えた。学生の自己評

An Empirical Proposal of First-Year Experience Programs to Cultivate Active Attitudes by Learning-by-Doing Methods.

Saki IMAMURA[†], Tagiru NAKAMURA[‡],

Noriyuki KAMIBAYASHI^{†‡}

[†]Media Science Program, Tokyo University of Technology Graduate School

[‡]School of Media Science, Tokyo University of Technology

表 1. 数値化した行動データ

日常的行動	facebook返信コメントにかかる時間	1時間以内
		6時間以内
		24時間以内
		遅れ返信
		コメントなし
		返信ポイント
社会関係性	質問回数	スマホ・携帯の連絡先件数
		社会人の連絡先件数
		学生の連絡先件数
結果	GPA(Grade Point Average)	取得単位数
		発表点
		提出ポイント
		提出ポイント
学生の自己評価	1週間の時間の使い方	予習・復習
		サークル活動
		アルバイト
		その他の活動
	学業への姿勢	授業への出席・集中
		授業以外の学業への取り組み 課題・試験等の取り組み
社会人基礎力	前に踏み出す力(アクション)	主体性
		働きかけ力
		実行力
	考え抜く力(シンキング)	計画力
		創造力
		課題発見能力
	チームで働く力(チームワーク)	状況把握力
		ストレスコントロール力
		規律性
		傾聴力
		発信力
		柔軟性

価は、前期が終了した後、自分の取り組みについて学生が評価した物である。「1週間の時間の使い方」とは、それぞれの項目について学生が1週間に使った時間を書き込むものである。「学業の姿勢」とは、それぞれの項目について学生が「とても良い・良い・悪い・とても悪い」の4段階で評価するものである。社会人基礎力は、愛知学泉大学教授飯田博氏の「社会人基礎力の自己診断シート⁴⁾」を用いて学生が自己診断した数値を利用した。定めた指標について、統計解析ソフトウェア(SPSS)を用いて相関係数と有意確率を算出した。

4. 結果

相関係数を調べた結果、次の通りであった($p < .05$)。

「返信ポイント」と「GPA」	: .574
「返信ポイント」と「取得単位数」	: .489
「返信ポイント」と「提出ポイント」	: .594
「コメントなし」と「GPA」	: -.511
「コメントなし」と「取得単位数」	: -.474
「コメントなし」と「提出ポイント」	: -.587
「実行力」と「GPA」	: .606
「主体性」と「取得単位数」	: .709

これらの変数の関係を図示すると図2に示すようになる。

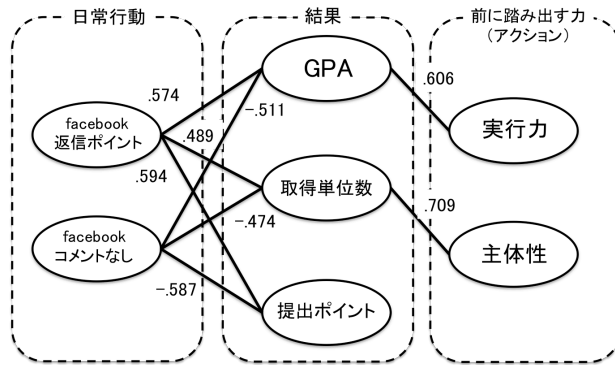


図 2. 相関関係図

5. 考察

クイックレスポンスの指標である「返信ポイント」「コメントなし」と学生のパフォーマンスの結果である「GPA」「取得単位数」「提出ポイント」に相関が見られたが、自律的・能動的行動の指標である「前に踏み出す力(アクション)」の項目とは直接的な相関が認められなかった。そのため、クイックレスポンスを習慣付けることが直接的に自律的・能動的行動を育成するわけではない可能性が示唆された。しかし、「GPA」は「実行力」、「取得単位数」は「主体性」と正の相関があった。このことから、クイックレスポンスと自律的・能動的行動は間接的に関係がある可能性が示唆された。

この関係について、①クイックレスポンスを習慣付けることでGPA等の結果の底上げをできるが、②高いGPAを獲得するためには実行力が不可欠である、という段階的な構造になっている可能性が考えられた(図3)。

今後の課題として、この可能性の詳細な検証を行うことが挙げられる。

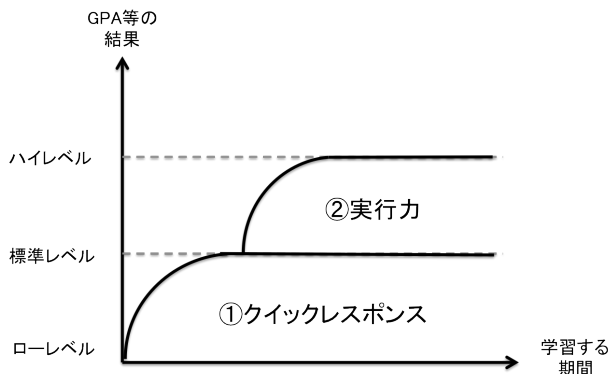


図 3. クイックレスポンス、実行力とGPAに関する考察

参考文献

- 1) 初年次教育学会：初年次教育の現状と未来，世界思想社(2013)。
- 2) 河合塾：大学の初年次教育調査(2009)
- 3) 酒井薫：大学初年次教育における学生の主体的活動を促すプログラムの提案と評価～学生の自発的テーマに基づくシンポジウムの自主企画・実施～，東京工科大学メディア学部卒業論文(2013)
- 4) 飯田博：社会人基礎力の自己診断シート，<http://iidazemi2.seesaa.net/article/209208019.html>(2013-12-20 参照)